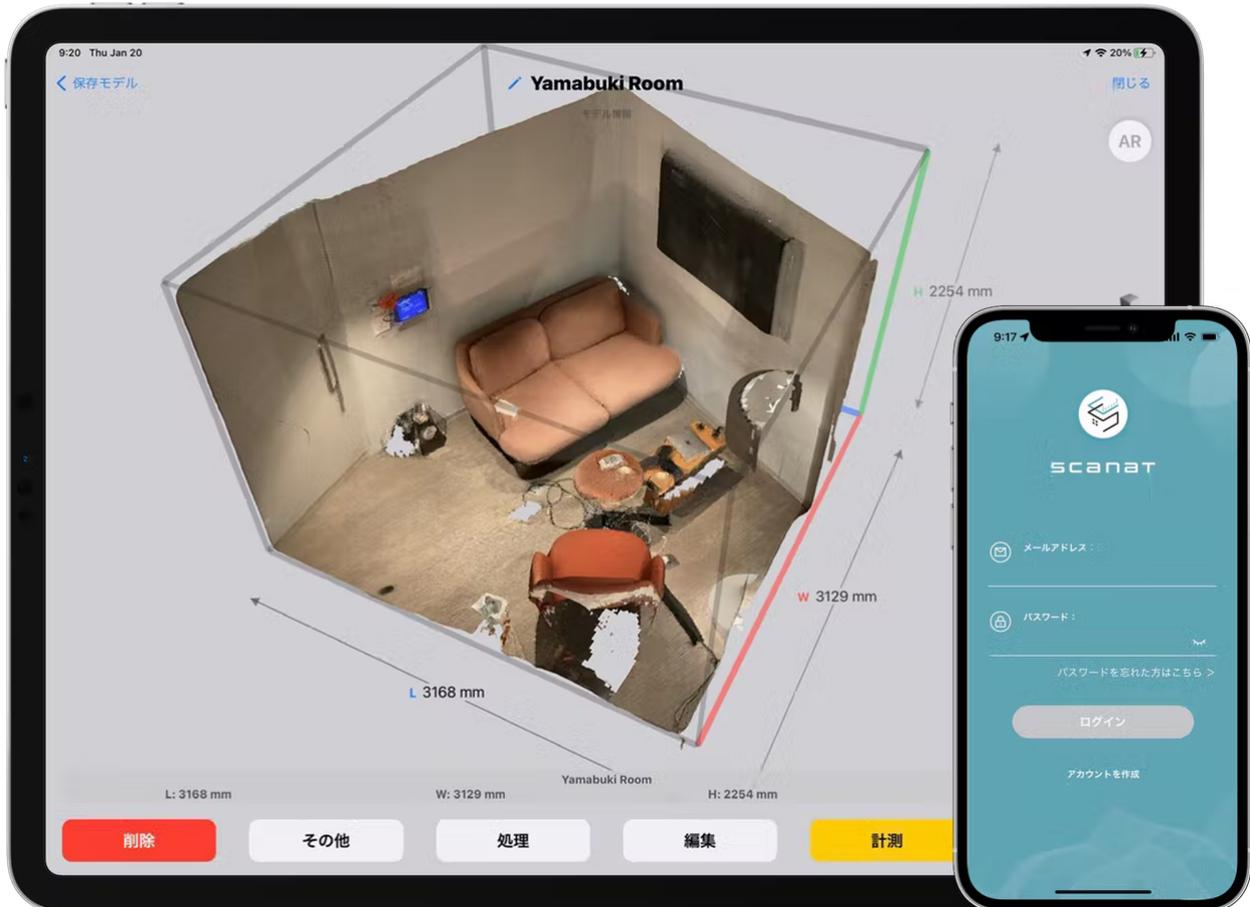


# スマホで撮影、部屋を3D化 natが建設業向けアプリ

2022/1/28 15:59 | 日本経済新聞 電子版



natが開発したアプリのイメージ

スタートアップのnat（ナット、東京・港）がスマートフォンで撮影すると部屋を3Dモデル化するアプリの提供を始めたと発表した。レーザーを当てて被写体との距離を測るセンサー「LiDAR（ライダー）」で部屋を点群データ化し、ナットが開発した人工知能（AI）で面を補うことで3Dモデルを生成する。建設業界向けに、リフォームや引っ越しなどでの活用を想定する。

提供を開始したのは「Scanat（スキャナット）」。ライダー機能が搭載された米アップルの「iPhone（アイフォーン）」や「iPad（アイパッド）」で利用できる。既にライダーを用いた3Dモデル化アプリは存在するが「ミリ単位の計測ができる点で差別化できている」（劉栄駿代表）という。管理画面では撮影した部屋の寸法などが表示される。

部屋のリフォームなどを行う際、建設業界ではスタッフが図面の作製やメジャーを用いて人手で計測しておりコストがかさんでいたという。スキャナットの提供で業務を効率化できると見込む。価格は月額税別9000円か、年額同7万2000円。既に建設会社など4社が使用して

いるという。サービスはIDごとに契約が必要で、12月末までに約200~300IDの契約を目指す。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.